

3 那須町のすがた

1) 位置・地勢

本町は、栃木県の北部に位置し、東京都まで約170km、県都宇都宮市まで約60kmの距離にあります。

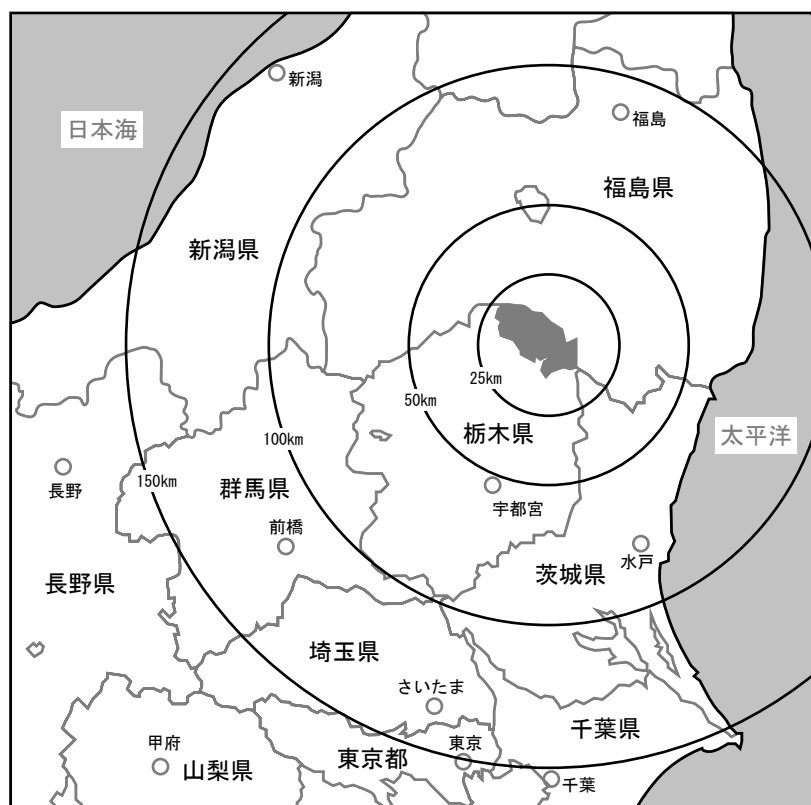
東は八溝山を境に福島県棚倉町及び白河市に、西は那珂川をはさんで那須塩原市に、南は那須塩原市及び大田原市に、北は福島県白河市及び西郷村に接しています。

那須連山と八溝山地に至る広大な面積を有する本町は、総面積372.34km²を有し、栃木県の総面積の約6%を占めています。

北西部には、今なお噴煙をはき続ける那須連山の主峰、標高1,915mの茶臼岳がそびえ、その南斜面には、那須温泉郷、レジャー施設や別荘が点在する高原地域が広がるとともに、中央部の平坦地には、JR黒田原駅周辺を中心とする市街地や、首都圏農業の一翼を担う広大な農業地帯が形成されています。

東部の八溝山系一帯は、県立自然公園区域に指定されるとともに、良質な八溝材の生産地となっています。

また、那珂川、余笹川をはじめとする1級河川が数多く流下しており、平成10年の那須水害以後の河川整備が進むとともに、うるおいのある環境を形成しています。



2) 沿革

本町は、明治22年の市制・町村制施行によって、那須村・芦野町・伊王野村が誕生し、昭和29年11月3日に、この1町2村が合併、昭和30年12月には黒磯町の一部を編入し、現在の那須町が形成され、合併より60年の歴史を刻んでいます。

3) 交通

本町の交通網は、JR東北本線、東北新幹線、東北縦貫自動車道、一般国道4号及び一般国道294号により骨格が形成され、特に東北縦貫自動車道には那須インターチェンジとETC専用の那須高原スマートインターチェンジが配置されるなど、恵まれた交通条件を有しています。

4) 地域資源

【歴史・文化資源】

国指定4、県指定8、町指定64の文化財を有しており、かつての宿場町・城下町であった芦野地区及び伊王野地区において集積がみられます。

【観光・交流資源】

那須御用邸を有するロイヤルリゾート地であるとともに、雄大な那須連山の主峰茶臼岳をはじめ、那須高原、八幡ツツジ群落、殺生石などの自然・名勝、那須温泉郷などの温泉資源、様々なレクリエーション施設、別荘・保養所等のリゾート資源を有しています。

また、町内には東山道伊王野と那須高原友愛の森の2箇所の道の駅が整備され、そのうち那須高原友愛の森については、地方創生の核となる重点道の駅に選定されています。

5) 行政指標の状況

町の財政力指数については、平成21年0.812から平成25年0.769へ低下するも、過去5年間に於いて概ね0.8程度を維持しています。

経常収支比率については、平成21年90.8%から平成25年88.4%へと移行し、過去5年間の推移は横ばいの状況です。

実質公債費比率については、平成21年13.4%から平成25年10.0%へと移行し、過去5年間に於いて年々減少の傾向にあります。

※**財政力指数** : 基準財政収入額を基準財政需要額で除した値のこと。一般的に1.0に近く1.0を超えるほど財源に余裕がある。

※**経常収支比率** : 経常的経費を経常一般財源で除した値のこと。比率が高いほど使い道の決まった経費の割合が高い。

※**実質公債費比率** : 借金返済額を標準財政規模で除した値のこと。

6) 人口・世帯数の推移

【人口の推移】

本町の人口は、平成22年時点で26,765人です。

平成2年からの推移をみると、26,000人から27,000人の間をほぼ横ばいに推移しています。

【年齢別人口の推移】

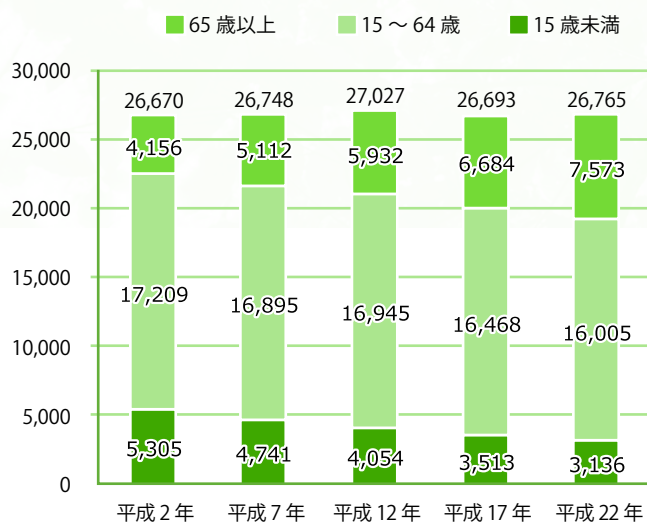
年少人口（15歳未満）の推移を見ると、少子化の影響から、20年間で約2,200人の大幅な減少を示しているのに対し、老年人口（65歳以上）については、首都圏から移住される方の増加等の要因もあり、約3,400人の大幅な増加となっています。

【世帯数の推移】

本町の世帯数は、平成22年時点で8,699世帯です。

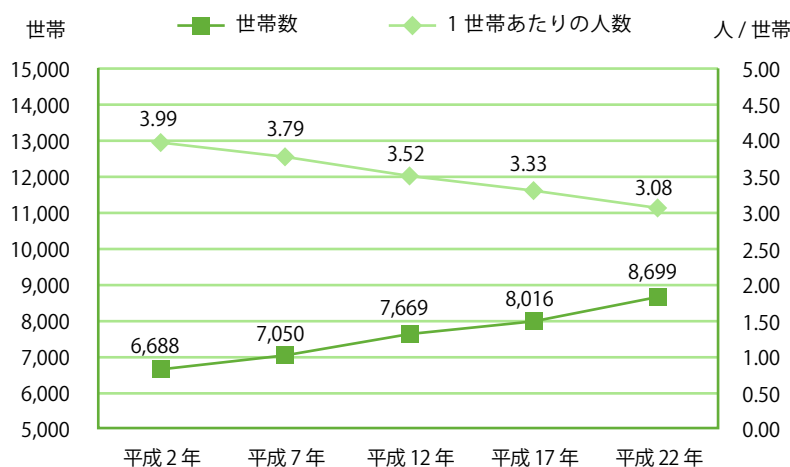
1世帯あたりの人数は減少の傾向にあり、核家族化が進展していることがうかがえます。

—人口・年齢別人口の推移—



出典：国勢調査

—世帯数の推移—



出典：国勢調査

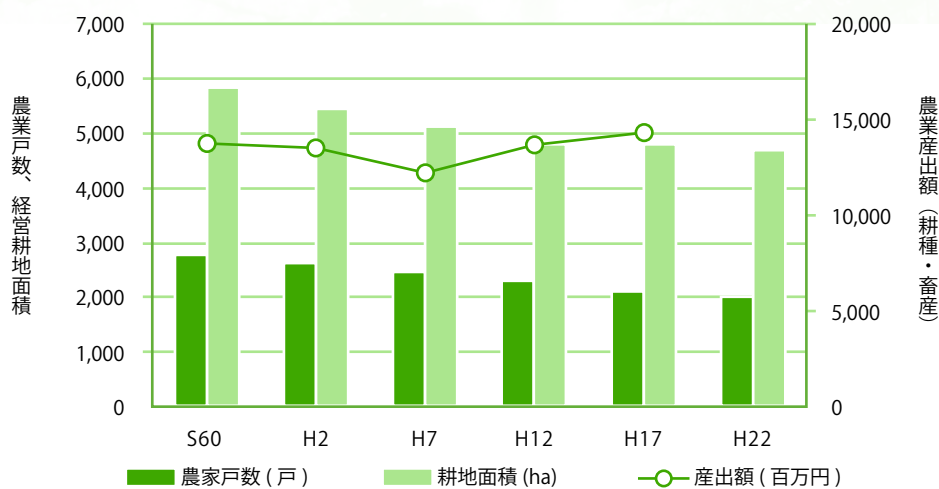
7) 産業の特性

【農業】

本町の農業は、首都圏の農業生産拠点としての立地特性を活かしながら、山麓地帯の畜産（酪農等）、平坦地における米作などを主体に展開されています。

農業産出額は横ばいであるものの、農家戸数、経営耕地面積については減少の傾向を示しています。

－農家戸数及び農業産出額等の推移－

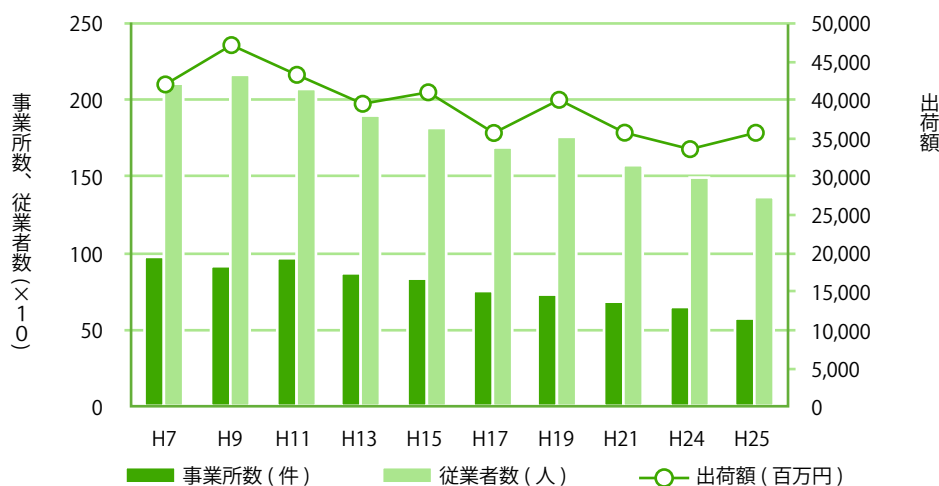


※平成22年以降は「農業産出額」について市町村区分による統計数値なし
出典：農林業センサス

【工業】

本町の製造品出荷額については、社会経済情勢等による増減を経ながら減少の傾向を示し、従業者数・事業所数についても同様に、僅かずつ減少を示しています。

－事業所及び製造品出荷額等の推移－

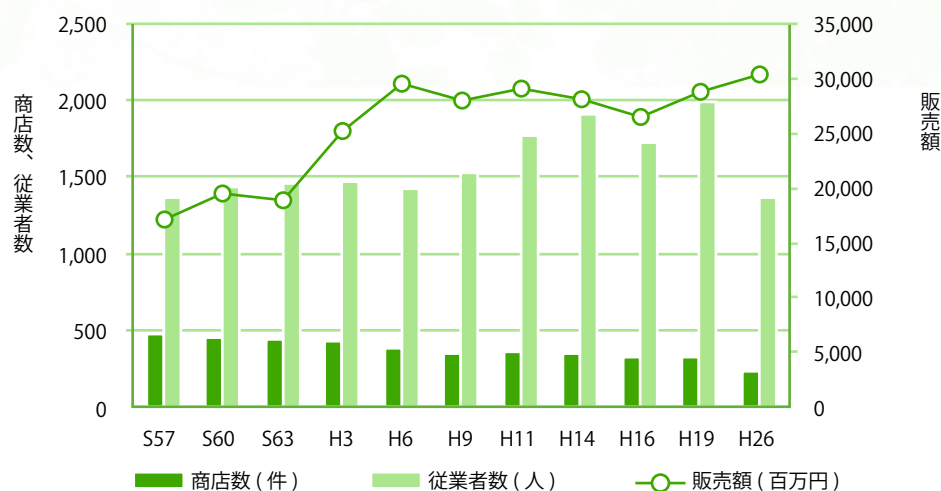


出典：工業統計調査

【商業】

本町の商店数・従業者数については、やや減少の傾向を示すのに対し、商品販売額については、総体的に緩やかな増加の傾向を示しています。

— 商店数及び商品販売額等の推移 —

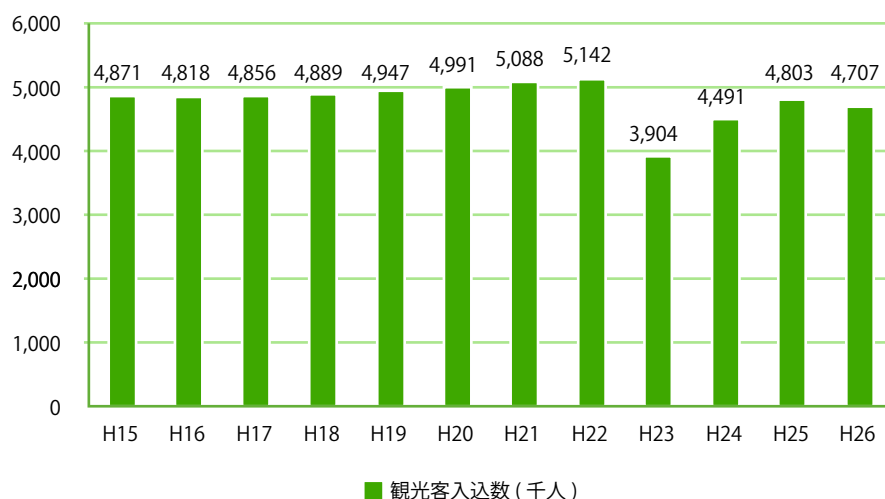


出典：商業統計調査

【観光】

本町の年間観光客入込数は、平成26年時点で約470万人となっています。東日本大震災の影響に伴う大きな落ち込みがみられましたが、近年は以前の水準にまで徐々に回復の兆しをみせています。

— 観光客入込数の推移 —



出典：栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

[参考データ]

■那須町の男女別産業人口

・那須町における男女別の産業別従業者数

: 男性…宿泊業・飲食サービス業が最多、次いで農業、製造業

: 女性…宿泊業・飲食サービス業が最多、次いで卸売業・小売業、農業

・那須町における産業の特化係数

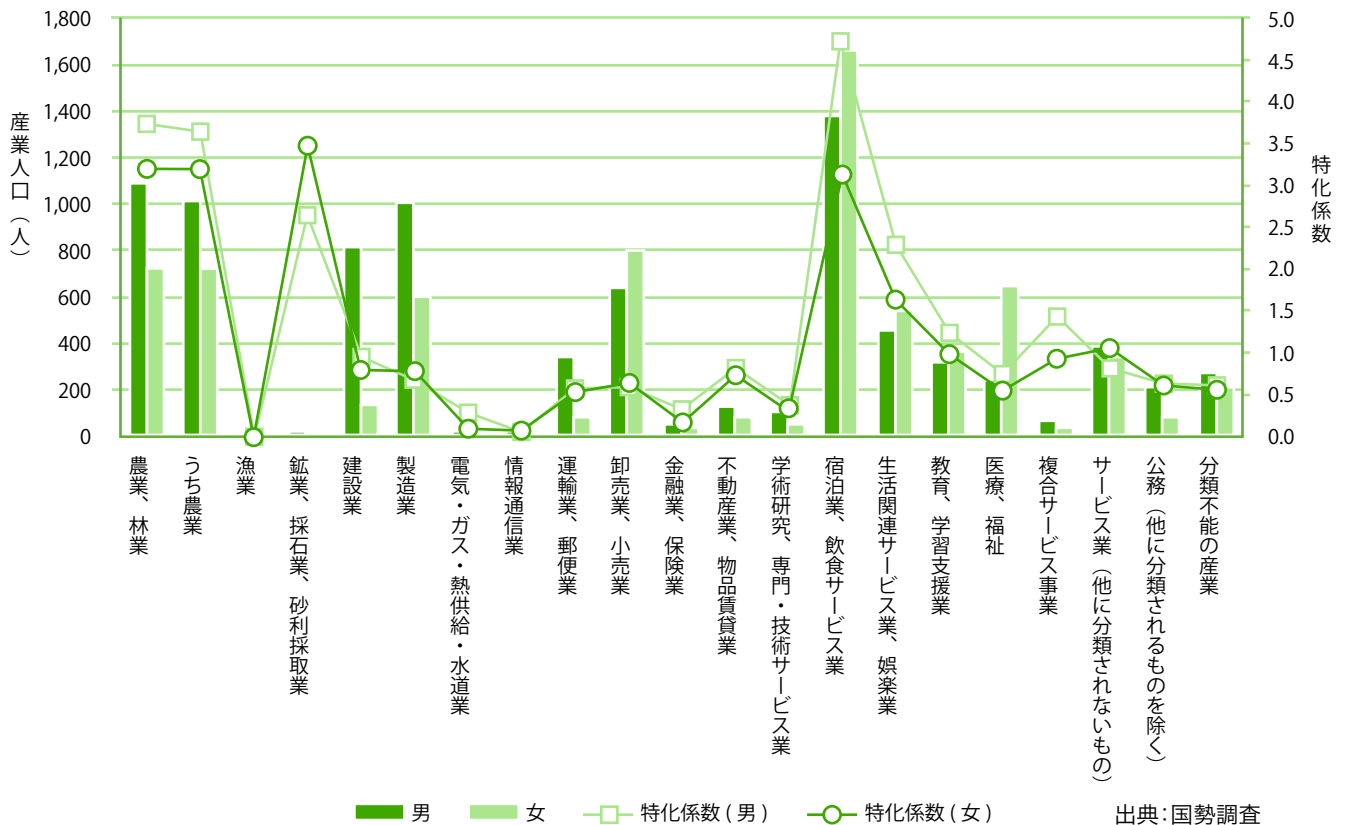
: 男性…農業、鉱業のほか、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、複合サービス事業、教育・学習支援事業において高い値

: 女性…農業、鉱業のほか、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業において高い値

: 那須町においては、常住地と従業地がほぼ同一の農業をはじめ、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業を中心に雇用の場を提供

※産業の特化係数：当該市町の各産業の就業者比率／全国の各産業の就業者比率

—那須町の男女別産業人口（従業地による就業人口）—



出典：国勢調査

8) 地域のつながり

2つの定住自立圏(※)に含まれる本町の特異性を踏まえつつ、周辺市町とのつながりのなかで本町に求められる役割を以下に整理します。

※定住自立圏：地方における大幅な人口減少や急速な少子高齢化が見込まれるなか、「中心市」の都市機能と「近隣市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化などのそれぞれの魅力を活用し、相互に役割分担・連携することで、圏域全体の生活機能を確保し、地方圏への人口定住促進を図ろうとするものです。

【那須地域定住自立圏構想】

○圏域を構成する市町

・那須塩原市(中心市)、大田原市、那須町、那珂川町

○重点テーマ

・地域内のエネルギー・食料等の自給構造の確立

…地域内のエネルギー・食料等の地産地消、地域住民が中心となった地域内での人材・資源・資金を循環させる仕組みの創設

・他地域との差別化を通じた交流人口・定住人口の増加

…本圏域の観光資源及び交通拠点施設(新幹線駅、高速IC等)を活用した交流ネットワークの構築、観光戦略・公共交通ネットワークの拡充・地域プロモーション等の促進

【八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン】

○圏域を構成する市町

[栃木県] 大田原市(中心市)、那須塩原市、那須町、那珂川町

[福島県] 棚倉町、塙町、矢祭町 [茨城県] 大子町

○中心市と連携市町の役割分担

・連携市町

…持続的・魅力的で幸福感あふれる圏域づくりに向けた生活機能の強化(保健医療、福祉、教育、産業振興、環境、防災消防等)、結びつきやネットワークの強化(地域公共交通、圏域内の交流促進、文化・芸術等の連携)

■定住自立圏構想から求められる本町の役割

◎豊かな自然環境をはじめとした特色ある観光資源及び東北縦貫自動車道などの広域アクセス機能を活かした“観光・交流の場づくり”や、周辺市町における仕事の間或いは買い物の間として機能する那須塩原市・大田原市との適切な連携・役割分担による“住み良いまちづくり”の展開が求められています。

[参考データ] 定住自立圏における市町のつながりの把握

■対象市町

- ・より広範な「八溝山周辺地域定住自立圏」を構成する市町を対象に人の動きを整理
[栃木県] 大田原市(中心市)、那須塩原市、那須町、那珂川町
[福島県] 棚倉町、塙町、矢祭町
[茨城県] 大子町

■昼夜間人口比率の推移

- ・栃木県の大田原市、福島県の棚倉町において昼夜間人口比が100を上回り、地域の従業・通学の場として拠点的な役割を担う
- ・那須町においても同様、流入就業・通学者数が流出のそれを大きく上回り、大田原市とほぼ同程度の昼夜間人口比を維持(定住人口の規模は小さいものの周囲から人を引き込む要素を有する)
- ・他の市町においては昼夜間人口比が100を下回り昼間における交流人口の不足等が懸念

※**昼夜間人口比率**: 昼間人口(夜間人口(常住人口)から他の市町へ通勤・通学している人を引き、他市町から通勤・通学している人を足した数)を夜間人口で除して100をかけた値

—昼夜間人口比率の推移—

市町名	夜間人口 常住人口		流出就業・通学者数		流入就業・通学者数		昼間人口		昼夜間人口比	
	: a						: b		: b / a	
	平成 17 年	平成 22 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 17 年	平成 22 年
那須町	26,693	26,765	4,822	4,912	6,149	5,752	28,020	27,605	105.0%	103.1%
大田原市	79,023	77,729	12,896	13,463	16,336	16,970	82,463	81,236	104.4%	104.5%
那須塩原市	115,032	117,812	21,098	21,825	14,638	14,310	108,572	110,297	94.4%	93.6%
那珂川町	19,865	18,446	4,485	4,305	2,227	2,142	17,607	16,283	88.6%	88.3%
棚倉町	15,795	15,062	3,012	3,175	3,683	3,258	16,466	15,145	104.2%	100.6%
矢祭町	6,740	6,348	1,330	1,371	1,070	1,044	6,480	6,021	96.1%	94.8%
塙町	10,619	9,884	2,173	2,040	1,299	1,293	9,745	9,137	91.8%	92.4%
大子町	22,103	20,073	2,934	2,764	1,187	1,268	20,356	18,577	92.1%	92.5%

出典: 国勢調査

■通勤流出入の動向

- ・対象圏域における通勤流出入の動向から以下の4つに区分
[就業中心型] 大田原市、那須町
[中継型] 棚倉町
[通勤依存型] 那須塩原市、矢祭町、塙町、大子町
[通勤依存大型] 那珂川町

- ・栃木県の大田原市、那須町が地域の従業の場として機能
- ・那須塩原市等については隣接市町への通勤が多くみられる居住の場として機能
- ・栃木県側においては大田原市・那須塩原市・那須町が相互に補完しあう圏域を構成
- ・那須町においては那須塩原市から多くの就業者を引き込み

一通勤流出率・流入率一

市町名	(1) 当地に常住する就業者数 (2)+(3)		(2) 自市区町村に従業する就業者数		(3) 他市区町村で従業する就業者数		(4) 他市区町村に常住する就業者数		(5) 当地で従業する就業者数	
	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年
那須町	13,611	12,417	9,549	8,184	4,062	4,212	5,930	5,563	15,479	13,939
大田原市	39,748	38,327	28,497	26,123	11,251	11,919	14,387	14,941	42,884	42,074
那須塩原市	60,988	59,140	42,432	38,944	18,556	19,264	13,280	13,209	55,712	54,610
那珂川町	10,640	9,345	6,822	5,586	3,818	3,756	2,120	2,017	8,942	7,641
棚倉町	8,004	7,432	5,343	4,622	2,661	2,809	3,224	2,905	8,567	7,715
矢祭町	3,385	3,015	2,275	1,854	1,110	1,161	1,068	1,043	3,343	2,931
塙町	5,504	4,869	3,664	3,090	1,840	1,779	1,127	1,169	4,791	4,379
大子町	11,092	9,610	8,624	7,195	2,468	2,395	1,145	1,176	9,769	8,485

市町名	(6) 常住地就業率 (2)/(1)		(7) 流出率 (3)/(1)		(8) 流入率 (4)/(1)		(9) 流出超過率 (7)-(8)		(10) 住宅地化係数 (1)/(5)	
	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年	平成17年	平成22年
那須町	70.2%	65.9%	29.8%	33.9%	43.6%	44.8%	-13.7%	-10.9%	0.88	0.89
大田原市	71.7%	68.2%	28.3%	31.1%	36.2%	39.0%	-7.9%	-7.9%	0.93	0.91
那須塩原市	69.6%	65.9%	30.4%	32.6%	21.8%	22.3%	8.7%	10.2%	1.09	1.08
那珂川町	64.1%	59.8%	35.9%	40.2%	19.9%	21.6%	16.0%	18.6%	1.19	1.22
棚倉町	66.8%	62.2%	33.2%	37.8%	40.3%	39.1%	-7.0%	-1.3%	0.93	0.96
矢祭町	67.2%	61.5%	32.8%	38.5%	31.6%	34.6%	1.2%	3.9%	1.01	1.03
塙町	66.6%	63.5%	33.4%	36.5%	20.5%	24.0%	13.0%	12.5%	1.15	1.11
大子町	77.7%	74.9%	22.3%	24.9%	10.3%	12.2%	11.9%	12.7%	1.14	1.13

出典：国勢調査

一通勤先一

1位・2位・3位
(平成22年)

